





60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	◆水明インターネット句会◆ 令和六年十一月
小春日や出るに出られぬ生配信	綾取りの娘（こ）に教へらる冬浅し	押しくら饅頭ほどほどにして嫁に來い	塾帰り孫に傘さす秋時雨	爛酒を慕いてくぐる暖簾かな	檸檬齧り「さあ！行くぞ」と後半戦	黄落やベンチの二人黙通す	月冴えて爺はコーヒーポットから	すれ違う神の子人の子千歳飴	少子化を柳葉魚食らひつ考える	七五三湯築城あとに子規笑ふ	石露の花彩なき庭のほの灯り	払暁に待ち人來たり霜柱	枯蠩螂後期高齢皆盛ん	鬼の子や鎧を重ね籠る軒	冬晴の壁一面にへっくぱーん	ロッカーの陰で肉饅半分こ	我が足は巨人の足よ&#34695; ;&#34488; ;逃ぐ	凧や研ぎたる空の蛾眉の月	初舞台古希の顔（かんばせ）天高し	





120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101		
慎ましく庭影ほのかつ石路の花	河豚食うて地獄の赤い水を搔く	失職にさせた議会と知事の冬	秋深し揺りかごと化す終電車	モノクロの黒澤映画芋かじる	都落ち四万十懸かる寒の月	オリオンよ空狭き街を踏んで行け	ふくらはぎに似ている子持柳葉魚かな	背を伸ばしゴミ捨てにゆく今朝の冬	諍いを厭はぬ国よ露凍る	駐在所のフェンス占拠や葛の花	奥能登に春待つ調べ駅ピアノ	もつ焼きに柚味噌たつぷり屋台酒	石鉢や綻ぶ石路(つは)の花のもの	週末に彼氏来るよと空つ風	観覧車ライトの紅葉街覆う	歩き疲るる月光に誘はれて	踏み減りし磴の窪みの木の実かな	ビィナスも仮面も土偶冬暖か	その赤は命の色か実南天		◆水明インターネット句会◆ 令和六年十一月

																124	123	122	121
																長き旅路終へ独り熱爛注ぐ	寒さ増し短歌の暗記に努めたり	今年なほとどかぬ高さ烏瓜	冬めいてまた数減りしクラス会

◆水明インターネット句会◆

令和六年十一月